

会 議 録

□全部記録 ■要点記録

1 会議名	平成24年度第1回姫路市環境審議会環境基本計画委員会
2 開催日時	平成24年5月30日（水曜日） 10時40分～11時20分
3 開催場所	姫路市防災センター5階 災害対策本部会議室
4 出席者又は欠席者名（敬称略）	（出席者）山村充、足立昌子、鞆川恵司、中瀬勲、福永明 （欠席者）有馬妙子、石井修、小河晶子、川崎志保、杉江他曾宏 （事務局）環境局長 中澤賢悟 環境政策室 池田康政、小村博史、大西真吏
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、傍聴人なし
6 議題又は案件及び結論等	議題 諮問第3号 新姫路市環境基本計画について
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

平成 24 年度姫路市環境審議会 環境基本計画委員会 会議録（内容）

1. 諮問第 3 号の内容説明

計画策定に向けた大まかなスケジュール案を資料 1 に示す。計画策定に向けて当審議会や地球温暖化対策実行計画推進協議会において検討するほか、庁内においても環境基本計画推進本部を中心に環境施策の庁内調整を図っていく。また、市民等の意見を反映させるため、市民意識アンケート調査のほか、12 月にはパブリック・コメントを募集する予定としている。

「新姫路市環境基本計画策定方針（案）」を資料 2 に示す。

「1 計画策定の趣旨」は、平成 13 年度に策定した環境基本計画が、今年度で目標年次を迎えることから、これまでの取り組みを総括するとともに、来年度以降、本市が環境に関する施策を総合的、計画的に推進するための指針となる新たな計画を策定しようとするもの。新計画の策定にあたっての視点は、

- ・「震災以後のエネルギー政策の変化、生物多様性など社会的トピックを反映」
- ・「総合的な環境施策の推進」
- ・「快適さの視点も兼ね備えた環境・経済・社会の統合的向上」
- ・「市民環境力の向上」

の 4 つとしたい。

特に、3 点目の「快適さの視点も兼ね備えた環境・経済・社会の統合的向上」については、未来にわたって持続可能な社会を構築していくため、安全の確保を前提としたうえで、「快適さ」の視点を持ちつつ、「環境・経済・社会」の統合的な向上が図れる取り組みを検討する。また、4 点目の「市民環境力の向上」については、環境問題を解決するには、市民一人ひとりの行動が重要となるため、環境教育・環境学習の充実など市民の環境力を向上させる取り組みを検討する。

「2 計画の位置づけと役割」は

- ・環境の保全と創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するもの
- ・他の計画の策定及び施策の実施に際し、環境面において整合が図られるべきもの
- ・市民、事業者の環境面に関する指針となるもの

としたい。

「3 計画の期間」は、総合計画との連動を図るため、平成 32 年度を目標年度としたい。なお、社会情勢の変化などに対応するため、必要に応じて見直しを行うものとする。

「4 計画の対象範囲」は、「対象地域」を姫路市全域とし、「対象とする環境要素」を「大気・水環境」をはじめ、「自然環境」や「地球環境」などを設定したい。

「5 全体構成イメージ」は、図に示しているものをベースにしながら、「本市、国内の動き」、「改訂以後の 5 年間の取り組みと課題」、「上位計画、関連個別計画」、「関連指標の経年変化」、「市民アンケート」などを反映したものにしたい。特に、ポイントとしては、環境に関する施策を盛り込むところについて、「環境教育・環境学習」、「エネルギー・温暖化対策」、「生物多様性」、「他分野（例えば、農林漁業や商工業等）との連携」などを強化する方向で検討したい。

現在実施している市民意識調査の概要を資料 3 に示す。調査は、郵送によるアンケート調査で行い、調査対象は、満 20 歳以上の市民 1000 人で、住民基本台帳及び外国人登録から無作為抽出した。調査内容としては、過去 2 回実施した調査からの経年的な意識の変化を把握するとともに、最近話題となっている項目などとなっている。次回委員会

において、アンケートの結果を提示したい。

計画期間のほぼ中間年次である 19 年度に改訂した際に、進捗管理の方法の一つとして環境指標を設けており、19 年度～22 年度の環境指標の動きをまとめたものを資料 4 に示す。この指標や毎年公表している「姫路の環境（姫路市環境基本計画報告書）」などを参考にしながら、今後の具体的な計画の検討を行いたい。

2. 意見・質疑応答

委員：海辺や島などに最近興味がある。環境省も、干潟における生物多様性などの視点から国立公園の見直し作業をしている。姫路市は合併して島などの部分が増えたので、計画の中の生物多様性の項目に盛り込めば独自性のあるものができるのではないかと。

委員：計画には地球規模の視点も盛り込むとのことだが、温暖化の問題については原発の状況などでどうなるかわからない。その事も見つつ計画を策定できるのか。昨年市の温暖化対策計画が策定されたが、これをそのまま進めるのか。

事務局：温暖化対策計画では、削減目標を 20%としているが、社会情勢の変化に応じて CO₂ の削減率を見直すことになっている。現状のエネルギー状況等を鑑みるに、他の要素がどれだけ加味できるのかという議論はあるものの、現在設定している CO₂ の 20%削減という数値は見直さざるをえないと考えている。今回の環境基本計画についても、想定される可能性を検討しつつ策定していきたい。

委員：自然エネルギーをどう考えていくのが重要である。

委員：今一番気になる点は、エネルギー問題である。姫路市の強み、独自性を持たせた再生可能エネルギーがあれば、盛り込んでいくとよい。

委員：関東の浄水場で基準値以上のホルムアルデヒドが検出された問題で、姫路市で苦情はないのか。また、規制とかはないのか。

事務局：今回のケースでは、環境基準の対象になっていない物質が浄水場の消毒用塩素と反応しホルムアルデヒドが生成された。何がよくて何が駄目なのか、線引きが非常に難しい問題であると考えている。

委員：政府の動きを見つつ、場合によっては考慮していかなければいけない問題である。

委員：次回の委員会までに、事務局側に準備して欲しい資料等はあるか。

事務局：温暖化対策計画では、関電が示した電力発電状況や CO₂ 排出量を元に 2020 年度までの CO₂ 削減目標を作った。原発が稼働せず火力発電で代替した場合、数値がどう変わるのかを示す資料を、次回までに準備しておきたいと考えている。

委員：第二火力発電所の発電機はいつ稼働するのか。

事務局：6 基ある発電機のうち、古い 3 基を廃止して新しいものに更新する工事を現在行っている。その 3 基の更新工事が終わり次第、残りの 3 基の更新工事を行う。全工事が完了するのは、平成 27 年度である。ただ、原発の稼働に目処がたたない状況の中、今残っている 3 基の発電機をそのままにして新しい発電機を設置できないかなど、様々な方策を関西電力は模索している。しかし、旧の発電機を残したまま新しい発電機を設置するとすると、旧発電機の廃止を前提とした環境アセスの結果が変わってくることになり、地元との調

整が必要になってくる。

委員：生物多様性の問題については、行政だけで対応するのは難しく、市民との協働が必要になってくると思う。市内で生物多様性関係の活動をしているNPO等は把握しているか。

事務局：大阪ガスがビオトープなどの施設を作ったり、水族館の前館長が積極的に取り組みを模索したりしているが、NPOについては把握していない。

委員：資料の表の中に、生き物調査という項目があるが、これはどういうものなのか。

事務局：指標となる生き物を設定し、5年サイクルで経年的な変化を観察するもので姫路市内の小学校を対象としているものである。

委員：姫路市の小学校が、県の教育委員会から環境学習によく取り組んでいるとして表彰されていた。我々が知らない取り組みを拾っていただけらいいと思う。まずは、県が行っているグリーンスクール表彰を調べて、各小中高でどのような取り組みを行っているか調べてみてはどうか。また、姫路市では自然観察の森、ビオトープなどが全国的に有名である。これらをうまくまとめていただけらいいと思う。